

メッセージアウトライン

コリント人への手紙 第二4:7~15 「土の器と宝」

[7]「私たちは、この宝を、土の器の中に入れていたのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです」

「宝」とは6節で言われている「キリストの御顔にある神の栄光を知る知識」すなわちイエス・キリストによる救いの福音のこと。「測り知れない力」とは普通の限界を超えた力であり、神に源を発する並外れた偉大さを表している。もろく、壊れやすく、価値のないものを用いて、神は偉大なことをなされるのである。

[8-9]「私たちは、四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方にくれていますが、行きづまることはありません。迫害されていますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません」

これは直接的にはパウロたちの経験であったが、また、これはいつの時代でも、主に熱心に従おうとするクリスチャンたちにとっても同様な事実である。→ピリピ1:29~30 しかし、人間的にはどうしようもないこのような苦境に陥られたとしても最終的にはイエス・キリストがそれを乗り越えさせ、勝利を与えてくださる。そのことによって、このような力は私たちの力ではなく、神からの力であることが明らかにされ、神の栄光が現されることとなる。

[10-11]「いつでもイエスの死をこの身に帯びていますが、それは、イエスのいのちが私たちの身において明らかに示されるためです。私たち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されていますが、それは、イエスのいのちが私たちの死ぬべき肉体において明らかに示されるためなのです」

ここでパウロは自分たちの受ける迫害と苦しみはイエスの苦難と関連していることを教える。イエスがかつて迫害され苦しみを受けたように、その弟子たちも同様に苦しみを受ける。弟子たちのそのような苦難、苦しみ、死の危険を通して、それを乗り越えさせるイエスのいのちが明らかに示されるのである。

[12]「こうして、死は私たちのうちに働き、いのちはあなたがたのうちに働くのです」

このようにしてパウロたち伝道者が伝道のため迫害を受け、死ぬような苦しみを通らされることによって、ますますキリストの力がそこに現され、恵みによって人々が救いに導かれることとなる。

[13]「『私は信じた。それゆえ語った』と書いてあるとおり、それと同じ信仰の霊を持っている私たちも、信じているゆえに語るのです」

パウロはここで詩篇116篇10節を引用している。詩篇の作者が「私は信じた。それゆえ語った」と言ったように、それと同じ精神でクリスチャンもイエス・キリストのことを証しし、福音を伝えるのである。

[14]「それは、主イエスをよみがえらせた方が、私たちをもイエスとともによみがえらせ、あなたがたといっしょに御前に立たせてくださることを知っているからで

す」

パウロがこのように信じることを語るのには、信じる者は主イエスと同じ歩みをする
ことができるからである。主イエスが苦しまれたようにクリスチャンも苦しみ、
主イエスが死からよみがえられたようにクリスチャンも死からよみがえり、主イエ
スが父なる神の御前に立っておられるようにクリスチャンも父なる神の御前に立
たせていただくことができる。パウロは自分と同様、コリント人たちもそのように
なることを知っており、また確信しているのである。

[15]「すべてのことはあなたがたのためであり、それは、恵みがますます多くの人
に及んで感謝が満ちあふれ、神の栄光が現れるようになるためです」

パウロはここで苦しみを受けながらも福音宣教を続けてきた理由を述べている。
彼は自分自身の幸福や利益のみを追い求める者ではなく、人々の上に神の恵みと栄
光が現されることを切に求め続けた人であった。彼も様々な弱さを持つ人であった
が、神は彼を用いて偉大な働きをなさしめた。私たち自身も全く土の器にすぎない
者であるが私たちと共に働かれるキリストのすばらしい力が現され、そして神の栄
光が現されるように信仰を持って主に従っていかなければならない。